

科目名	東アジア関係論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 寛	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-350003	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究方法を体得していること			
授業の目的	<p>本科目は、「環日本海交流論」とともに、東アジアの各国地域・歴史研究を横断的に理解する知的枠組みを模索する。「環日本海交流論」が〈海〉をめぐる自治体や市民の交流史に重きを置くとすれば、「東アジア関係論」では、それに加え東アジア国際政治史などのより高次元な次元をも含むより包括的な視点に基づく。概して、「東アジア」の近代史は、暴力とディスコミュニケーションに彩られた不幸なものであったといえることができるかもしれないが、近年、主に経済分野で多くの協力関係が模索され、「東アジア共同体」構想も浮上してきた。歴史認識問題や冷戦期米国の東アジア政策、核問題など、「東アジア」に根雪のように残る障害をしっかりと見つめると同時に、新たな地域主義や地域協力の胎動も確実にききとげたい。本講の最終的な目的は、「東アジア〈共生〉の条件」がどこにあるのかを探ることにある。揺れ動く東アジア情勢の中で、一人の市民としてそれをどう理解し、行動するべきなのか、具体的な素材を通じて考えたい。必要に応じて、学生同士のディスカッションも行う。</p>				
学修到達目標	受講者がそれぞれ、国境を越えて揺れ動く東アジア情勢に多角的な視点を持てるようになること。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	「東アジア」とは何か ― 歴史編
第2回	「東アジア」とは何か ― 理論編
第3回	歴史認識問題と「東アジア」 ①

第4回	歴史認識問題と「東アジア」 ②
第5回	分断国家と「東アジア」 ①
第6回	分断国家と「東アジア」 ②
第7回	アメリカと「東アジア」 ①
第8回	アメリカと「東アジア」 ②
第9回	リスク共同体としての「東アジア」
第10回	エネルギー問題と「東アジア」
第11回	経済共同体としての「東アジア」
第12回	「東アジア」共生のために ①
第13回	「東アジア」共生のために ②

第14回	「東アジア」共生のために ③
第15回	※+1回分は、資料映像の鑑賞に充てる。
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。紹介したテキストや映像資料を閲覧する。
【復習】時間・内容	2時間。紹介したテキストや映像資料を閲覧する。

成績評価	
評価基準・方法	基本的に学期末試験で評価する（100%）。しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。
フィードバック方法	学期末試験で最優秀のものは、他の学生諸君にも参考となるため公表することもある。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク
教科書/参考書	教科書は、佐々木寛編『東アジア＜共生＞の条件』（世織書房）。 参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、佐々木寛編『東アジア＜共生＞の条件』（世織書房）、五十嵐暁郎・佐々木寛・高原明生編『東アジア安全保障の新展開』（明石書店）を挙げておく。
受講上の留意点等	内容的に高度なものも含むので、知的好奇心が高い学生を望む。ロ・中・韓・米各地域・歴史研究の基礎的な知識が前提となる。「平和学」「国際政治学」をすでに受講していることが望ましい。
JABEE	